

平成 17 年度調査・研究事業

産学連携製造中核人材育成事業

【概要】

本事業は、情報通信機器や自動車向けの高度部材、ユニット・製品を生産する「ものづくり企業」が集積する北上川流域および山形・米沢地域において、既に構築された産学官連携および両地域間の交流体制を活用し、生産現場の中核となる人材育成を行うものである。

具体的には、岩手大学における大学院「金型・鑄造工学専攻」の設立や、大手企業の技能研修所の地域中小企業への開放研修、地域企業協同による技能研修事業などのための、カリキュラム・テキスト開発、実習機器開発を行うもので、当センターは、岩手大学や米沢商工会議所、アルプス電気などと協力しながら、プロジェクト管理法人として当事業全体を管理・運営した。

【対象市町村、モデル地域等】

北上川流域および山形・米沢地域

【調査年度】

平成 17 年度

【提案・要請者】

【提言内容・その後の活動等】

本事業は、平成17年度から約3年間実施するもので、今年度の岩手大学、米沢商工会議所、アルプス電気における成果は下記のとおりである。

①岩手大学大学院工学研究科金型・鑄造工学専攻

金型・鑄造工学専攻カリキュラムとシラバスを作成した。また、金型・鑄造工学専攻の募集パンフレット、ポスターを作成しPRを行った。

②アルプス電気株式会社技能研修所

「金型製造プロセス概要課程」についてテキストを作成した。

岩手大学の指導・助言を得ながら、既存の社内資料を精査するとともに、最近の金型に関する最新技術等を反映し、集大成を行った。

③米沢商工会議所(米沢産業育成事業運営委員会)

「現場で学ぶ体験的生産革新」、「現場で役立つTQM・品質管理」、「実践的信頼性試験」に関してテキストを作成し、12月より実証講座を開催した。

産業界の意見を取り入れるため、カリキュラム開発検討委員会を開催し、実証講座で得られた情報等をもとにプログラムを修正し、完成度を高めた。また、プログラム作成に当たっては、山形大学、山形県工業技術センターの専門家などの評価等を受け、プログラムにフィードバックさせた。

【成果品】

報告書

【調査体制】

当センターがプロジェクト管理法人となり、岩手大学や米沢商工会議所、アルプス電気などと協力しながら当事業全体を管理・運営。

【委員長・座長】

平塚 武文（財）東北産業活性化センター コーディネーター

【事務局】(IVICT は除く)**【調査協力機関】**

国立大学法人岩手大学、米沢商工会議所、アルプス電気株式会社

【視察先・ヒアリング先など】**【委員等】(分科会等は除く)**

木村 富雄（財）東北産業活性化センター 常務理事・事務局長

亀田 英一郎 岩手大学附属金型技術研究センター客員教授

佐々木 哲夫 岩手大学附属金型技術研究センター客員教授

多田 尚 水沢市鋳物技術交流センター所長

竹本 義明 TCT鋳造技術研究所所長

小笠原 慶 元エヌワイデータ株式会社社長

赤尾 洋二 山形大学客員教授

【区分】

産学連携製造中核人材育成事業